

2022年度

(2022年4月1日～2023年3月31日)

事業報告書

及び

その附属明細書

公益財団法人三井物産貿易奨励会

2022年度事業報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

### 【はじめに】

2022年は新型コロナウイルスは「オミクロン株」が主流となり、デルタ株に比し伝播性が高いものの重症化は軽いことからウィズコロナのライフスタイルも進み、コロナによる社会、経済への影響が減少しました。当会の事業では、インドネシア奨学生の選考は筆記試験はオンライン方式が定着し、最終面接は原則対面方式に戻りました。又、豪州からの研修員派遣は3年振りに復活しました。

一方で2月24日から始まったロシアによるウクライナ侵攻の影響を受け、エネルギー・資源価格を始めとしてあらゆるものの価格上昇が進み、日本においては円安が進みました。

欧米では2022年から金融引き締めが始まりましたが、日本銀行は2022年末に長期金利の変動幅の拡大を決めたものの長短金利操作が継続すると見られております。

### <最近の経済情勢と財団収益への影響>

収益事業を行わない本財団の収益の基礎は、基本財産の運用益であり、基本財産(2022年度の期初時点で7億1千万円)の殆どを固定金利の高格付け仕組債等によって運用しています。投資有価証券(期末で総額6.5億円)の平均利回りは年率1%を割っている状況(約0.99%)で、2022年度の有価証券他の運用益は約666万円となりました。

尚、2023年3月末現在の保有有価証券の状況は次の通りです。

銘柄	簿価	時価	期末評価差額
フランス電力第4回	3億43万円	2億9,405万円	▲638万円
三菱UFJクレジットリンク	1億円	1億2万円	2万円
大和ゴールドマンサックス	1億円	9,908万円	▲92万円
岡三ゴールドマンサックス	5千万円	4,356万円	▲644万円
JPモルガンストラクチャー	1億円	9,947万円	▲53万円
合計	6億5,043万円	6億3,618万円	▲1,425万円

### <2022年度の事業費他の不足分に対する基本財産の取崩>

2022年度の経常費用は3,750万円となり、前年度4,595万円から845万円の減少となりました。費目別の主な増減は、不正事案対応の為に委託契約を締結した西村あさひ法律事務所への業務委託費(弁護士費用)が当年度は33万円となり前年度の1,049万円から1,016万円減少、又、前事務局長の退職及び後任の採用により給与手当等(退職金、福利厚生費等含む)が225万円増加、ミャンマー奨学生が前年より2名減少し、支

給奨学金が120万円減少、又、インドネシア奨学生の現地での面接が再開したことなどにより旅費交通費が78万円増加したことなどです。

区分会計ごとの前年度対比は次の通りです。 (単位 : 万円)

区 分	2022年度	2021年度	差 異
公益目的事業会計(1)	2,291	2,192	+99
公益目的事業会計(2)	728	562	+166
扶助事業	171	287	▲116
法人会計	560	1,554	▲994
合 計	3,750	4,595	▲845

西村あさひ法律事務所への弁護士費用の支払いは前年度の1,049万円から33万円へと1,016万円減少したことにより法人会計は合計で560万円となり、有価証券運用益等収益の合計は666万円あったので、当年度は運用益等で収まったことになりました。

公益目的事業費合計((1)+(2))の不足額については、従前、三井物産株式会社からの寄附金を充当しておりましたが、2013年1月に同社より環境変化を理由に2013年度以降の当会への寄附を見合わせる旨の通知があり、爾後変化がない状況が続いています。従って、本財団は公益目的事業他を行う公益財団法人であり、基本財産運用益の他に収益源が無いことから、理事会及び評議員会の承認を得た上で、上記不足額に見合う基本財産を取崩して公益目的事業費に充当しました。

尚、2020年に発覚した横領事案による逸失金額の回復の為に、2022年3月末の未収金額に見合う4,704万円を2022年4月22日に三井物産殿から寄附して頂き、指定正味財産の増加となりました。

### 【2022年度の実施事業】

2012年4月1日に移行認定登記を行った本財団は、2022年度も公益目的事業(公1)として、貿易及び国際経済の研究などを行う外国人留学生に対する奨学金支給、宿泊施設提供及びそれに関連する事項を公益目的事業の柱として継続実施すると共に、公益目的事業(公2)として三井物産株式会社が1992年3月12日に中央三井信託銀行株式会社(現在は三井住友信託銀行株式会社)と契約して設立した「公益信託三井物産インドネシア奨学基金」(以下、奨学基金)並びにその奨学生に対する支援、及びそれに関連する事項を行いました。

公益目的事業に加え、2018年3月5日付けで内閣府から認定を受けた相互扶助等事業

(他1)として、三井物産株式会社ヤンゴン事務所が助成するミャンマーからの留学生に対する奨学金支給及びそれに関連する事項にも継続して取り組みました。

また、上記以外に豪州三井物産株式会社が日豪間の結びつきをより強め、相互理解と友情を促進することを目的として1971年に現地に設立した公益信託基金「三井教育基金」が、豪州の大学から選抜した大学生を日本に派遣して行う約3週間の研修プログラムも、コロナ禍による2年の中断後本年度には再開され、そのサポート業務に取り組みました。

### <具体的な実施事業>

2022年度に行った具体的な実施事業は、次の通りです。

#### 1. (公1) 外国人留学生に対する奨学金の支給及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項1号関係)

2022年度は奨学金支給の継続者(2年目)2名の他、2021年度末で支給期間が終了した者の交替者として大学の公募を経て申し込みのあった者から本財団が選定した4名を加えた合計6名に、月額各10万円を支給しました。

#### 2. (公1) 外国人留学生に対する宿泊施設の提供及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項2号関係)

2022年度は、宿泊施設提供者の継続者(2年目)1名の他、2021年度末で提供期間が終了した為大学の公募を経て申し込みのあった者から本財団が選定した3名を加えた合計4名に、本財団が借り上げている国立市にあるアパート4部屋を無償提供しました。賃借料、修繕費及び更新料などのアパートに係る直接費用の合計は前年度とほぼ同じでした。

尚、(公1)の外国人留学生(合計10名)については、留学生支援金として奨学金支給対象者6名に月額1,400円(連絡交通費相当額)を、宿泊施設提供対象者4名には月額10,000円(水道光熱費及び連絡交通費相当額)を別途支給し、支援しました。

また、(公1)の外国人留学生(合計10名)に関連する事項として、原則として毎月1回外国人留学生と個別面談を行い、その結果を関係者に毎月報告した他、10月には研究内容に関する報告書(論文形式)を提出させて生活・修学状況等の情報を収集して受給資格を確認すると共に、日常生活・進路等に係る支援等を行いました。相互理解の一環として四半期に一度の頻度で開催していた懇親会も本年度から復活することができ、出身国、大学が異なる学生間の交流も深まりました。

2022年度の奨学金支給対象者と住居施設提供対象者は次表の通りです。

奨学金支給				宿泊施設提供			
拓殖大学	学部3年	ドイツ	男子	一橋大学	博士2年	中国	女子
日本大学	学部3年	韓国	女子	一橋大学	学部2年	韓国	女子
早稲田大学	博士1年	韓国	男子	立教大学	学部4年	韓国	男子
千葉工業大学	修士2年	中国	男子	明治大学	学部2年	中国	男子
東京大学	修士1年	中国	男子				
慶應義塾大学	学部4年	韓国	女子				

(注) 個人情報保護の観点から、個人名は省略しています。

上記の(公1)事業の1989年度から2022年度までの実績は、次の通りです。

【1989年度から2022年度までの支援実績】

	(外国人留学生の個人数)	(外国人留学生の延人数)
奨学金支給	154名	248名
宿泊施設提供	95名	154名
特別研修生	6名	12名
合計	255名	414名

(注) 延人数とは1名・1年間=1名とし、1名・2年間なら2名としています。

3. (公2) 公益団体等及びその奨学生に対する支援及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項3号関係)

(1) 公益信託三井物産インドネシア奨学基金に対する支援として次の活動を行いました。

ア. 奨学基金が行う奨学生の募集選考に関する支援

2022年度採用の24期生2名の募集選考、及び2023年度採用の25期生の募集に関して、次の支援を行いました。

【募集選考の支援実績】

日程	24/25期生の募集選考に関する支援実績
2022年 4月10日	24期 筆記試験(オンライン)の実施
4月14日	筆記試験結果の発表
4月27日	心理試験
5月27日	総合的な結果発表(面接試験受験候補者の選抜)
6月14日	面接試験の実施(面接委員は日本から2名が参加)
6月17日	最終選考結果の発表(合格者2名)
7月1日	ビザ関連書類の提出期限
7月中	PERSDAによる現地での日本語教育開始
9月中	VISAの申請その他来日手続きのサポート
2023年 1月2日	ウェブサイトにて25期生募集要項掲載

1月16日	25期生登録開始
2月17日	25期生登録締め切り
3月13日	応募書類による筆記試験受講候補者選考

(2) 奨学生に対する支援として、次の事項を行いました。

ア. 23期／24期奨学生の本邦への受入及び生活手配

2021年度の23期奨学生は、新型コロナウイルス感染症の影響により半年遅れで2022年の4月8日に来日しましたが、2022年度の24期奨学生は状況が改善し例年と変わらず10月5日に来日し、JASSOの入学式にも間に合いました。在留登録や、銀行口座の開設など、日本での勉強、生活が早期に立ち上がる様サポートを実施しました。

イ. 2022年度の奨学生（10名）は次の通りです。

期生	男女別	大 学
20期生	男性	早稲田大学先進理工学部電気情報生命工学科4年
20期生	女性	横浜国立大学都市科学部建築学科4年
21期生	女性	東京工業大学電気・電子工学部3年
21期生	女性	東京理科大学理工学部応用生物学科3年
22期生	女性	京都大学農学部地域環境工学科2年
22期生	女性	早稲田大学創造理工学部建築・社工・資源学科2年
23期生	男性	東京工業大学 環境・社会工学系 進学予定
23期生	男性	東京理科大学 工学部 進学予定
24期生	男性	東京日本語教育センター
24期生	男性	東京日本語教育センター

「月例会」の開催などにより近況等情報を収集すると共に奨学生の生活上の問題・修学進捗度・希望進路等に関する助言を行う他、必要な生活・学習情報を提供しました。また、日本語学校より、日本語学校在学中の奨学生の学習進度・生活状況等の情報を聴取し、要望・提言の申入れも行いました。

尚、奨学生の対応に当たっては、奨学基金運営委員（学識経験者）、独立行政法人日本学生支援機構日本語教育センター（学務・校務・総務）等の担当者の助言を仰いで実施致しました。

ウ. (公2)に関連する事項として、奨学生が支払った奨学基金が負担すべき経費の精査、

並びに奨学基金に対する支払依頼等を行いました。

尚、(公2)事業に関する費用は、前年度の562万円から728万円へと166万円の増加となりましたが、人件費及び旅費交通費の増加が主な理由です。

4. (他1) その他の団体及びその研修生等に対する支援及びそれに関連する事項  
(ミャンマー人留学生に対する奨学金の支給及びそれに関連する事項)

(定款 第4条1項4号関係)

2022年度の奨学生(3名)は次の通りです。

	学部・学科
男性	東京農業大学大学院国際農業開発学科博士2年
女性	東京農業大学国際食糧情報学部国際農業開発学科4年
女性	東京農業大学国際食糧情報学部国際農業開発学科3年

\*博士2年の男性は、ビザが未発給であるため、2022年3月末時点で来日出来ていません。

2022年度は、ミャンマーのイエジン農業大学から転籍して東京農業大学に入学した留学生を対象として本財団が選定した2名に継続して月額各5万円を支給しました。本来奨学金支給対象者は3名でしたが、その内1名にビザの発給がなされておらず、結果的に2名になりましたので奨学金の支給分が予算より減少しました。残額に就きましては扶助事業積立金として2023年度分に繰り越しました。扶助事業総額の経常費用は対象人数が前年の4名から2名に減少したこと等から、287万円から171万円に116万円減少となりました。

また、関連する事項として、原則毎月1回ミャンマー人留学生とグループ面談を行った他、四半期に一度程度の頻度で懇親会を開催しました。

前記の他に豪州三井物産株式会社が現地に設立した「三井教育基金」が日本へ派遣する豪州の研修生(大学生)の本邦における研修活動のガイダンス、日本企業・豪州大使館訪問、ホームステイ、三井物産内定者によるアテンドプログラムなどに関する連絡調整及び手配確認等の補助業務を実施しました。

【2022年度 三井教育基金に関する補助業務】

(月日)	(補助業務)	(補 足)
7月28日	三井物産関係スケジュール調整	会議室予約等
9月27日	茅ヶ崎国際交流会への情報提供	豪州研修生情報の翻訳、一覧表の作成、送付
9月28日	三井物産人事総務部への依頼	2023年度内定者からの協力者選定依頼
10月18日	三井物産内定者への協力依頼	
11月09日	三井物産内定者への事前説明会	12月10~11日の豪州研修生応対概要説明
11月24日	歓迎昼食会	内定者と豪州研修生の昼食会

11月24日	三井物産での講義、企業訪問	Moon クリエイティブラボ  豪州研修生の意見聴取（取纏めは豪物が対応） 内定者(会計)より経費精算書入手及び確認 旅行会社との立替経費精算
12月12日	三井物産幹部表敬訪問	
12月12日	豪州研修生の反省会	
12月中旬	内定者交流会費用精算書入手	
12月21日	旅行会社との費用精算	

【2022年度 三井教育基金の日本派遣豪州研修生一覧】

(大学名)	(専攻)	(学年)	(性別)	(年齢)
RMIT大学	広告	学部2年	女子	22
西豪州大学	医学部	学部4年	女子	21
グリフィス大学	航空学部	学部3年	男子	22
タスマニア海事大学	海事ビジネス	学部2年	女子	19
ウェスタンシドニー大学	法学部	学部2年	女子	20
ニューキャッスル大学	薬学部	学部2年	男子	20
豪州国立大学	国際関係学部	学部2年	女子	19
ディーキン大学	心理学	学部2年	女子	21

【2022年度 三井教育基金の日本派遣豪州研修生の研修日程】

(研修日程)	(研修内容)
2022年11月22日(火)	成田着
11月23日(水)	東京観光：東京国立博物館、浅草寺、秋葉原
11月24日(木)	三井物産本店（講義）、Moon クリエイティブラボ
11月25日(金)	平和学園湘南高校、茅ヶ崎でのホームステイ
11月26日(土)	着物、お茶会、茅ヶ崎国際協会歓迎会、茅ヶ崎でのホームステイ
11月27日(日)	ホストファミリーとの交流
11月28日(月)	箱根観光：芦ノ湖、大涌谷、温泉（箱根泊）
11月29日(火)	トヨタ産業技術博物館、名古屋観光（京都泊）
11月30日(水)	京都観光：二条城、金閣寺（摂南大学との観光）
12月01日(木)	奈良観光：奈良公園、東大寺、法隆寺（京都泊）
12月02日(金)	神戸観光：日本盛酒造所見学、震災記念館（日豪協会との夕食）
12月03日(土)	広島観光：平和記念公園（京都から移動）
12月04日(日)	広島観光：宮島、厳島神社（京都へ移動）
12月05日(月)	慶應義塾大学生との交流会、豪州大使館表敬
12月06日(火)	バンダーサービス、東京国際エアカーゴターミナル見学
12月07日(水)	FRD Japan 訪問（午後は自由行動）
12月08日(木)	フリー



12月09日(金)	三井物産本店(講義)
12月10日(土)	三井物産2023年度入社内定者との交流会
12月11日(日)	三井物産2023年度入社内定者との交流会
12月12日(月)	三井物産幹部表敬訪問、反省会、成田発

以上

公益財団法人三井物産貿易奨励会

## 《事業報告書の附属明細書》

2022 年度事業報告書の附属明細書については、事業報告書内に記載されている為、作成を省略している。